

当社メディカル事業の礎となった原点について

— 元最高技術顧問の偉大な功績に敬意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます —

当社メディカル事業の発展は、最高技術顧問であった百田昌司氏(1992年～2022年 当社在籍)の存在なくして語ることはできません。百田氏は、大手医療機器同業他社などにおいて検査用ガイドワイヤー・カテーテルなどの開発で大きな実績を築かれ、医療機器分野を牽引する存在として知られていました。そうした中、当時は産業機器を中心とし医療分野の実績が全くなかった当社に1992年に入社。創業者である現ファウンダーの宮田尚彦との二人三脚にて、共にゼロから医療機器事業の立ち上げに挑まれました。



創業者である宮田尚彦とともに



世界初のCTO治療用ガイドワイヤー「Miracle」 百田氏が作成した「技術的な専門用語を充実させた 日越辞典」



百田氏 経歴

1992年3月	当社入社、常務取締役
1996年12月	専務取締役
2000年7月	専務執行役員
2004年8月	最高技術顧問
2022年8月	当社顧問退任
2025年10月12日	86歳にてご逝去



医療分野の知識が社内にはほとんど存在しなかった当時、医療機器とは何か、医師との対話はどうあるべきか、臨床現場の評価をどのように取得するか——そのすべてを百田氏から学び、事業の礎が築かれました。とりわけ、医師の発する言葉を“数値化”し、理論として技術開発につなげる手法は、当社の開発文化に深く根付き、後の製品群の大きな強みとなりました。

その知識と技術力をもとに、日本初の治療用PCIガイドワイヤー「Soft」、世界初のCTO治療用ガイドワイヤー「Miracle」など、医療現場に革新をもたらす数々の製品開発を主導。CTO病変など難易度が高い病変の治療に新たな道を切り開き、当社メディカル事業の飛躍へとつながる基盤を構築されました。

また、ハノイ工場の立ち上げ期には日本語教育の重要性を説き、日常業務に即した「日越辞典」の作成を自ら主導。文化・言語の壁を越えたコミュニケーションの土台を整え、今日のグローバルなものづくり体制にも大きな影響を残しました。

百田氏の教えや姿勢は、今もエンジニア一人ひとりの中に脈々と受け継がれています。ご逝去の報に接し、これまでの多大なるご貢献に心より感謝申し上げます。また、謹んでご冥福をお祈りいたします。